



鹿児島市本名町

(夫) 濱田昭夫さん(50歳)
 (妻) あつこさん(50歳)
 (父) 藤崎貞光さん
 (母) 富美子さん

九州の農業の新しい顔

経営の概要

(経営面積)
 ・ 施設野菜(小松菜、山東菜) 37 a
 ・ 露地野菜(にんじん、だいこん他) 15 a
 ・ 水稲 65 a

経営の特色

鹿児島市の吉田地域で、小松菜や山東菜等の軟弱野菜、にんじん、だいこん等を生産しています。

消費者に安心して安全な野菜を提供するため徹底した土作りや減農薬栽培に取り組み、平成18年3月、小松菜等の主要3品目についてエコファーマーの認定を受けました。

また、同年8月には夫婦間で家族経営協定を締結し、認定農業者にも夫婦で共同申請するなど、お互いの立場を尊重する経営参画を目指しています。

就農の経緯

就農する前は夫婦共に民間企業に勤めていましたが、かねてから脱サラをして農業を始める夢を持ち続け、平成15年には夫の昭夫さんが、平成17年には妻のあつこさんが就農し農業経営を開始しました。

夫の昭夫さんは、「農業の魅力について農業は自分のやった努力がそのまま結果として現れ、経営が苦しいときもあるが、本当にやりがいのある仕事だ」と感じておられます。二人とも就農前から両親の農業経営を見聞きはしていましたが、実際に農業経営に携わるようになってみて、はじめて農業の大変さや面白さを実感しているようです。

お父さんの貞光さんは、「今までは労力的に厳しい経営だったが、後継者ができてから、毎日が楽しい」と喜んでおられます。

経営の展開

あつこさんは、平成18年9月に鹿児島県農村女性海外農家体験研修に参加し、イタリアにおける農村女性の経営参画状況について学びました。10月には女性農業経営士として認定され、地域農業のあり方や女性の経営参画について、他の農村女性と活発な意見の交換や提言を行っており、吉田地域に新風を巻き起こしています。

夫婦がお互いに良きパートナーとして、農業経営や地域活動に参画し、次世代に希望の持てる農業を引き継ぐことを目標としています。

現在、軟弱野菜の品質改善や生産性の向上に努めています。これからは、一定量をコンスタントに出荷しながら経営の安定化を図ることが課題です。

農政への意見

補助事業や制度資金を導入して経営を拡大することができました。今後新規就農者の経営が軌道に乗るまでは、補助事業の導入や制度資金、技術習得等の支援をお願いします。

九州農政局 生産経営流通部 経営課

就農促進・改良資金係

TEL 096-1353-1356

(内線4254)